

会 議 録

会議の名称	第2回川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会
開催日時	令和6年8月23日（金） 15時00分 開会 ・ 16時30分 閉会
開催場所	川越市役所東庁舎2階 教育委員会室
会長氏名	会長 眞下英二
出席者氏名	別紙のとおり
傍聴人	2人
会議次第	1 開会 2 議事 （1）第1回会議について（報告） ① 前回の質問に対する回答 ② 会議録について （2）資料説明 （3）審議の進め方等について 3 事務連絡 4 閉会
配布資料	【事前配付】 ・小中学校の適正規模・適正配置に関する資料集 ・資料5 小学校の児童数及び中学校の生徒数・学級数の推計（第1回配布） ・資料6 地区別シート（第1回配布） 【当日配付】 ・第2回川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会次第 ・座席配置図 ・資料1 【差替】 小中学校の適正規模・適正配置に関する資料集P. 6 ・資料2 【差替】 小中学校の適正規模・適正配置に関する資料集P. 16、17 ・資料3 （参考）市立学校への就学率を踏まえた今後の見込み ・資料4 第1回川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会会議録

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
司会 (事務局)	本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは、川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例第5条第2項に基づきまして、眞下会長に進行していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
眞下会長	ただいまから川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会令和6年度第2回会議を始めます。初めに本日の会議の出席状況について、事務局からお願いいたします。
司会 (事務局)	本日の会議の出席状況でございますが、小瀬委員、山崎委員、宮岡委員、藤崎委員は所用のため欠席と連絡をいただいております。本日の会議は、川越市立適正規模・適正配置審議会条例第6条第2項に基づき、委員の過半数が出席しておりますので、この会議が成立していることを御報告申し上げます。
眞下会長	引き続き資料確認について事務局からお願いいたします。
事務局	【資料確認】
眞下会長	それでは皆様どうぞよろしくお願いいたします。議事に入ります前に、本日の会議の公開についてお諮りいたします。本日の会議の公開につきましては、公開とさせていただきたいと存じますが、御異議ありますか。
委員	(異議なし)
眞下会長	それでは、本日の会議は公開会議といたします。傍聴希望者はいらっしゃいますでしょうか。
事務局	はい。本日は傍聴希望者が2名いらっしゃいます。
眞下会長	傍聴希望者2名いらっしゃるということですので傍聴希望者の入場をお願いしたいと思います。
	(傍聴者入室)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
眞下会長	それでは議事に移らせていただきます。議事の進行に御協力をお願いいたします。まずは議事の（１）第１回会議について、事務局から報告をお願いいたします。
事務局	第１回会議について報告いたします。①前回いただいた質問についての回答をさせていただきます。 資料集 6 ページの図表 6 について 1955 年では、川越小学校は川越第二小学校だったと思うが、という御指摘をいただきました。川越小学校につきましては、学校沿革誌で確認したところ、1955 年は、川越第二小学校でした。同様に月越小学校は川越第六小学校だったと思うが、という御指摘をいただきました。月越小学校につきましても、学校沿革誌で確認したところ、開校当初は川越第六小学校でした。なお、図表 6 につきましては、川越市教育委員会 50 年の歩み並びに川越小及び月越小の学校沿革誌を基に、学校管理課で作成したものに差し替えさせていただきます。 資料集 11 ページの図表 13 について、2024 年の仙波小学校、古谷小学校は 65 年が到来するが、どうするのかという御質問についてですが、担当課である教育財務課に確認したところ、現在のところ、維持管理を行いつつ、必要な修繕を行っていくとの回答でございました。 資料集 16、17 ページの図表 18、19 について、児童生徒数が上から大きい順になっていないが、どうなのかという御指摘をいただきました。御指摘いただいた 16 ページの図表 18、児童数、学級数の見込み、17 ページの図表 19、生徒数、学級数の見込みについては、上から大きい順に修正したものに差し替えさせていただきます。 市立学校への就学率を踏まえた今後の見込みについて小中学校の進学について私立進学を踏まえた児童生徒数は出せないのか、という御意見をいただきました。御意見いただいた資料については、資料 3 のようになりました。 小学校につきましては、私立学校への進学等を考慮した場合に、それを考慮しない場合と比較して、将来児童数にどの

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	程度の差異が生じるのかについて、調査を行いました。市立就学率については、令和6年度の住民登録上の学齢人口のうち、市立学校に進学している児童数の割合です。住民登録に基づく令和12年度の児童数見込みと就学率を考慮した令和12年度児童数見込みとの比較を行ったものが、表のとおりとなります。 中学校につきましても同様に、住民登録に基づく令和18年度生徒数見込みと就学率を考慮した令和18年度生徒数の見込みとの比較を行ったものが、表のとおりとなります。 小中学校とも学校によって多少差はあるものの、学級数に大きく影響を与えるものではないと捉えております。第1回会議でいただいた質問等の回答は以上でございます。
眞下会長	ただいまの報告につきまして、何かございますか。資料の修正及び追加並びに説明というところだと思いますが、よろしいですか。
委員	(質問等なし)
眞下会長	それでは御質問等ないので議事(1)の①については終了させていただきます。続きまして②の会議録について、事務局から報告をお願いいたします。
事務局	(説明 「資料4 第1回審議会会議録」について)
眞下会長	ただいまの会議録につきまして、御質問、御意見等ございますか。よろしいですか。
委員	(質問等なし)
事務局	なお、会議録につきましては、明日以降にホームページに掲載いたしますので、御了承いただければと思います。
委員	(承諾)
眞下会長	それでは御質問等ないので、議事(1)の②については終了させていただきます。それでは、次に議事の(2)

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	資料説明に移ります。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(説明「3 適正規模・適正配置 (1) 学校規模の標準」について)
眞下会長	3 (1) を説明いただきました。こちらにつきまして何か御質問等ございますか。よろしいですか。
委員	(質問等なし)
眞下会長	それでは、引き続き事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(説明「3 適正規模・適正配置 (2) 適正配置の考え方」について)
眞下会長	3 (2) につきまして説明いただきましたが、何か御質問がございましたらお願いいたします。
武藤委員	通学条件について、距離で見ているのですが、高階小学校のすぐ横に、国道 254 号線が通っています。おそらく高階小学校の通学区はこの国道を渡らないように設計されていると思いますが、大きな道路を渡らないだとか、駅の自由通路を通る通学路がはじめて認められたのですが、通学途中の条件を考慮することについては、この審議事項の中に含めないのでしょうか。
事務局	確認させていただき、次回の会議に回答ということによろしいですか。
眞下会長	この他に、ここまでのところで御質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。
委員	(質問等なし)
眞下会長	それでは、引き続き事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(説明 「資料 5 小学校の児童数及び中学校の生徒数・

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
眞下会長	学級数の推計」について) ただいまの内容につきまして、御質問ございましたらお願いいたします。
武藤委員	学級数が大きく下がる中学校がいくつかあったかと思うのですが、これは一つの小学校から中学校に上がってくるのか、複数の小学校から中学校に上がってくるのか。また、それぞれの小学校で同じように児童数が減っているのか、大きく児童数が減っている小学校もあるけれども、それほど児童数が減っていない小学校もあるのか、その関係性を見ると、中学校のところはもう少し見えてくるのではないかと思います。 例えば、砂中学校は高階小学校と、牛子小学校と仙波小学校から入学してきますが、それぞれの小学校が高階地区であったり、本庁地区であったり、南古谷地区であったり、地区が全く違います。牛子小学校学区にあるマンションが建ったときに、牛子小学校の児童数が増えたのですが、そこが落ち着いてきたら、多分、高階小学校が増えてくるのかなというような、小学校の児童数の動向と中学校の生徒数の減り方は関連してくるのではないかと思いますのですが、その辺りはいかがでしょうか。
眞下会長	これにつきまして、事務局から何かございますか。
事務局	当然、関係の小学校から中学校に行く場合には影響を受けていると事務局の方でも捉えています。
眞下会長	何か追加で御質問等ございますか。
武藤委員	大きく減っているところだけでも、その関係性が見えてくると、この表の中学校のところが見えやすいと感じますので、もし、それができればお願いしたいと思います。
眞下会長	おそらく、小学校が今後大幅に減少するのであれば、その後、中学校もということに関する御意見だと思うのですが、多分、非常に難しいのだらうと思っております。御承知のとおり必ずしも小学校区と中学校区が一致していない

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	というところもあるので、どの程度の部分で、どの程度減少するのかというところが難しいと思いますけれども、事務局でそういったことにつきましてどこまで可能であるのか、できれば意見いただきたいのですけれども。
事務局	まだ細かな分析が行えていない部分もありますので、特に減少が大きい傾向が見られる小学校と中学校の関連について、少しお時間をいただいて検討していきたいと思います。
眞下会長	多分そういったところが、より立体的にというか、考えていく上で必要になると思いますので、お手数でございますけれども、事務局の方で頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。それ以外に何かここまでのところ、御質問ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。
委員	(質問等なし)
眞下会長	よろしければ、引き続き事務局から説明をよろしくお願いします。
事務局	(説明 「資料6 地区別シート」について)
眞下会長	ただいまの内容につきまして、御質問等ございましたらお願いいたします
牧野委員	今、地区別シートを説明いただいたところではございますが、最小値の生徒数が3分の1以上か半分近くズレが生じているかと思うのですけれども、そのあたりはどれが正しい数字になるのか、教えていただければと思います。
眞下会長	事務局の方で何かございますか。
事務局	確認させていただいて、次回の会議に回答させていただきたいと思います。
眞下会長	数字上、少しズレがあるのではないかという御指摘かと思うのですが、そういうことでよろしいですか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
牧野委員	例えば、古谷地区の小学校ですね。319 人という最小値になっているのですが、年度で照らし合わせると、令和 47 年になるので年度にずれが生じています。どれが正しいのかなというところで教えていただければと思います。
眞下会長	数値については御確認いただければと思います。 会長が発言するのともうかと思われるかもしれませんが、この資料の数字に関して 2 点あります。 気になったことが、22 ページ、23 ページの川鶴地区なのですけれども、これの推計率っていうのが明らかに外れ値のようになってしまっていますが、これは何か計算ミスしていないだろうかということが、1 点気になりました。80%とか 120%とかであれば、まあまあと思うのですけれども、230%とか 329%となると、少しこれは外れ値というような感じがして、どこかで計算ミスしてはいないだろうかというところが 1 点気になりました。 それともう 1 点、これは資料の作り方というか見せ方の問題なのですけれども、このような統計の場合、ボトムについて、最低値は 0 に揃えるという形式にした方がいいのではないかと思います。もちろんスペースの問題もありますので、こうなっているのだろろということ、予測はつくのですけれども、本庁地区が左のボトムが 4,000 で右が 80 になっていて、芳野地区は左が 150 で右が 0 ということで、0 じゃないということは下にずっと続くということになりますので、この現象がどんな感じなのかということが少々わかりづらくなってしまっているのかなと思います。 このような図表に対しては、できれば資料上難しいということであれば、何か波線で表現するというような感じで区切っていただく方が、わかりやすくてよいのかなというふうに思いました。私の方から少し疑問に思ったことと、図表の見せ方の問題だと思いました。ただ、概要はわかりましたので、これはこれで大丈夫だと思いますけれども、そのような点について、次回の会議までに先ほど牧野委員から御指摘がありました点につきましても合わせて精査していただければと思います。
眞下会長	他に何かございますか。よろしいですか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	(質問等なし)
眞下会長	それでは、議事の（２）の資料説明は以上とさせていただきますと存じます。議事の（３） 審議の進め方等についてというところに入りたいと思います。 先ほど、事務局から前回の会議も含めて、川越市の現状、状況について説明いただいたかと存じます。それを受けまして、ここでは、御出席の委員の皆様から川越市の状況について、御感想あるいは今後の審議の進め方等、例えば、まず、こんなところから議論するべきではないかとか、そういったところもあわせて御意見、御発言を賜りたいと存じます。フリーディスカッションのような形で、どんどん御発言いただければと思っています。よろしくお願いします。いかがでしょうか。
遠藤委員	資料の地区別の推移を見ると、山にうねりがあるというのがとても気になっています。一時期減るのですがけれども、また 47 年度までを見据えると、もう一山あるというようなところから、安易にその地域の学級数だけで決めるのが非常に難しいものだということが印象として残っています。数値的なところからしか今のところは言えないのですが、それぞれの学校、例えば小学校が中学校のどこに上がるかによってもまた中学校の見方も難しいのだということを改めて感じたところであります。 先ほどの資料集の方で出されていた、市立小中学校の適正規模の過小規模にあたるところは、やはり検討はしていくべきところかと思いますが、安易な数値的なものだけではなく、長期な展望を見ながら、慎重に考えていくことが、学校にとっていいのではないかというのが第一印象、率直な感想です。以上でございます。
眞下会長	確かに数字だけでは、というところもございますので、皆様御承知のとおりだと思いますけれども、このような人口の増減というのは、予測に過ぎないというところでもございますし、本当に将来こうなるのかということはまだわからない。また、この山が下がってから上がっていくということは、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
武藤委員	現時点では川越市が、若い世代から選ばれる町になっているというところが大きいのだろうなと思っております。 つまり、比較的若い世代が入ってきて子供が生まれて少しずつまた増えてということが、今見られている状況なのだろうと考えます。 ただ、これが令和 40 年代後半までになっていますけれども、今から大体 50 年後ぐらいには果たしてどうなるか。半世紀先ということになりますと、もうずいぶん先のことを言うことになりますので、そこまで考える必要はないのではないかという御意見もあるかもしれませんが、自分たちの子供、孫の世代といったところも含めて考えていくべきではないかという御意見と拝聴いたしました。ありがとうございます。
	資料で説明いただきました、学校の適正規模の話なので、児童の状況が中心にはなってくるかなと思うのですが、学校は地域の中であって、その地域の中心として、自治会やそこに関わる P T A、自治会の役員の皆様だとか、色々な方に支えられながら運営してきていると思います。 自分の経験の話でしかないのですが、砂中学校は、高階地区と南古谷地区と仙波小学校の 3 校から進学してくると、3 校の地区自治会と付き合いなければいけないということが起きます。P T Aや保護者が活動する場においては、出身学校の色や、やり方が様々であることが考えられます。子供、生徒を支えていく保護者もいろんな地区から入ってくると、子供たちは、新しい友達ができたという喜びもあるかもしれないけれども、それを支えている地域の大人が少しやりづらくなる場所があるのではないかというふうに感じております。 ぜひ、過少により存続が難しくなるような学校があったときに、地域性といった部分もしっかり勘案して、ただ、人数だとか距離だとかということだけで考えないようにしていけるといいかなと思っております。
眞下会長	やはり、地域性というものが、特に小中学校の義務教育においては重要であるという御意見だと考えました。 少し話がそれるようですが、明治維新直後に大区小区制と

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	いう自治体のような、地域割りをしようとしたことがあったのですけれども、50戸とか100戸単位で作ろうとしたら大反対にあって数年も経たないうちにやめてしまったということがありました。結果、出てきたのは、やはり地域、旧来の共同体を重視しながら行政区画を割り付けていくということをやっていたことも考えますと、数字のみによって判断していくのは、いろいろと難しいところが出てくるのが事実だと思います。御意見ありがとうございます。
松本委員	色々と数字の面で説明いただいたのですけれども、もう少し子供の視点で考えてあげるというところも非常に重要だと思っております。例えば、学区が広がって4キロ歩くとなったら、50分かかるわけですが、現実的にできるのかどうかとか、そういった実質的なところも含めて考えるべき事柄なのかと思っております。 それから、一番大事なのは教育の質をいかに下げず、むしろ、どのように上げていくか、というところが一番肝だと思っておりますので、なかなか国も市も予算が税収などで厳しいというところもあり、建物の老朽化といった視点も大事なのですけれども、根本的には子供たちのために考えるというところが大前提だと思っておりますので、そこは話し合いの中では必ず心に留めておきたいと思っております。以上です。
眞下会長	子供が第一であるということは、考えてみれば当たり前の話なのかもしれません。そういった視点と先ほど歩行距離の話がありましたけれども、私は、尚美学園大学まで基本的に川越駅から歩き、大体30分かかります。朝、泉小学校の集団登校の子供たちと、ちょうどち合うのですけれども、あの距離を歩くのは結構大変だなというふうに思うのですが、同時に、足腰が強くなるだろうなと思いながら眺めています。正直なところ、私自身は通学に歩いて30分、40分、50分というのは、もっと山の方の学校の話だと思ったのですけれども、意外と近くにあったということを最近気付かされているところでございます。雪の日とか台風の日とかどうするのだろうかと思いながら、子供のことを考えたときに、どのような仕組みでやっていくべきなのかというところもあわせて見るべきだと思います。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	また、先ほど教育の質というお話がありましたけれども、私も色々な審議会に出ていく中で、川越市の学力テストのスコアが実はあんまり良くないということを聞いたことがありまして、その理由の一つが、地域間格差が大きいからだということを聞いたことがございます。 今後、子供の視点で教育の質を向上させるということを考えた時には、どのようにして地域間の格差を埋めていくのかという視点も段々と大事になってくると思いました。資料を拝見してみると、マンモス校もあれば、かなり小規模に近づいているところもありますので、これらの格差というのも結構問題になってくるので、尚のこと、適正規模という話が出てくるだろうと思いました。 その一方で、先ほど出てきているような数字だけでいいのか、地域性、子供たち目線で考えるとどうなるか、非常に難しくてどこかで、何か妥協といった語弊があるかもしれませんが、思い切ってやらなければいけないところも出てくるかもしれないと、現在、認識しているところではあります。私ばかりしゃべって申し訳ないのですけれども、他に何かございますか。
岡田副会長	最初にいただいた資料の中で、過去に1校だけ閉校があったと思うのですが、この理由や背景について教えていただきたい。
眞下会長	古谷東小学校ですかね。これが廃校になった背景、私も全く存じ上げないものですから、どなたか御存知の方いらっしゃればと思うのですが、事務局いかがでしょう。
事務局	古谷東小学校が廃校になった経緯につきましては、新入生の数が1桁になりまして、そこで住民の方々から意見をいただいたところから始まっております。そのような経緯があります。
岡田副会長	地図を見ていて東中学校の位置が、古谷小学校の北側に住んでいる生徒たちは自転車を使い通学することができているのでしょうか。先ほどの話に加えて言うと、歩いている児童、生徒を見ると荷物が重く、炎天下で大丈夫なのか気になっていまし

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	た。個人的には、自転車通学の許可が出ているのかと思っていました。
事務局	中学校につきましては、学校ごとに自転車通学を許可しているところもあります。
岡田副会長	東中学校は、自転車通学の許可はされているのでしょうか。
事務局	東中学校に関しましては、距離が遠いので、自転車通学は許可されております。
眞下会長	個人的には、逆に小学校が認められていないことが気になったのですけれども、この距離を歩くことは、正直なところこの地図を拝見して、古谷小学校の学区は大きくて、これを歩くのかなと思ってしまったのですけれども、歩くのですよね。
事務局	小学校に関しては徒歩で通学しています。
眞下会長	大変だろうなと個人的には思ってしまいます。
武藤委員	今のお話に少し関連するかもしれないのですけれども、過去に霞ヶ関北小学校は一度移転していると思うのですが、今回、統合が必要になってきた場合に、今、既に建っている小学校の中で、児童が移動するのではなくて、利便性のよいところに新しい校舎を建てて、そこに児童を集めていくという方法もこの議論の中にはあってよいものなののでしょうか。
眞下会長	新しく作るという考え方も含めて議論して良いのかどうか、ということですが、事務局どうでしょう。これに関しては、今後議論の対象とするという理解でよろしいですか。これも含めて、財政上難しいということは重々承知ではございますけれども、当然それも含めて考えるという方向でよろしいのではないかなと、私自身は考えておりますので、それも含めて考えたいと思います。貴重な御意見ありがとうございます。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
牧野委員	各小中学校の学級数が減っていく推移はお示しいただいたので、何となく想像はついたのですけれども、例えば、統廃合をすることになったときに、どこの学校を想定しているのか、また、その学校の教室の空き状況というのはどうなのかとか、そういった部分もかなり必要になってくるのではないかなと思います。鶴ヶ島市でも、学区の区割りの変更等も少しずつ始まっております。そういった部分に関しても検討する余地があるのではないかと地図を見ていると思う部分がありますので、そういった部分はいかなのかなと思ひまして御意見出させていただきます。
眞下会長	大きなところだと統廃合がありうるとしたらどこなのかという点、それから空き教室数がどの程度出ているのかという数字データですね。あわせて学区の区割りにについても検討すべきではないかと、こういう御提案があったと思います。その中で事務局にお伺いしますけれども、現時点で学校の区割等を変更する動きというのは実際あるのでしょうか。
事務局	現在、学区の区割りを変更するということはありません。
眞下会長	そうしますと学区の区割りもあわせて検討対象とするべきではないかということで考えてまいりたいと思います。
粕谷委員	統廃合する、閉校するという話があったと思うのですが、例えば、他市の状況を見ると、義務教育学校であったり、施設一体型の学校であったりという形で学校統合する形も出てきているように思いますが、そのことについて、この会議で審議の対象となるのか、ならないのかについて御質問させていただきます。
眞下会長	いわゆる義務教育の学校を全部一つにまとめてしまうというようなイメージでしょうか。
粕谷委員	施設一体型であれば坂戸市の城山学園が、そうだと思うのですが、それは審議の対象になるのですか。
眞下会長	私個人としては、当然それも議論の対象にして構わないと

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	思っております。先ほどの地図を拝見しましても、割と近くに小・中学校があるようなところもございますので、なんなら一緒にしてもいいのではないかとというようなところも自由に考えてよろしいのではないかと考えました。 私としては、データ等々を拝見いたしまして、非常に詳細なデータでこれから議論を進めていく上で必要なデータばかりだと思います。結局のところ、この審議会において審議すべき適正規模・適正配置、特に適正規模の考え方、小規模化への対応、それから統合等に関する方向性について審議いただきたいと、資料集の中に書いてあるわけなのですが、結局何が一番の問題点なのだろうというところが、やはり共通認識として持っておきたいと思っております。川越市の義務教育、市立の小・中学校の規模や配置について何らかの問題があるということはわかるのですが、まず、何を最初に議論して、何が問題であるというふうに我々の中で考えていくべきなのかというところをきちんと明確にしておきたいと思いました。そうした中で、いかがでしょう皆様の方から、こういったところをまず議論すべきではないかというような御意見があればと思うのですがいかがでしょう。
武藤委員	適正配置で、恐らく本庁管内は全く今までどおりで問題ないのではないかと思いますのですが、ただ、地域的にすごく子供が減少していくところがあるとか、どこの地域がどんな事情で児童が増えていかないのか、もう宅地がなく、今後も新しい家が建たないような地域だから子供が増えないのか、そもそも概念的に、これからの川越の小学校・中学校の配置について、どうするのかという理念的な部分から討議していくのかというのはどうなのでしょう。
眞下会長	恐らく地域の事情をまず考えていくのか、それとも川越市における適正とは一体何かということから入っていくべきであるのかと、そういうお考えですね。これに関しては、どちらもありうると思っておりますが、本庁地区が大丈夫かどうかということは、実は私も少々懐疑的なところがありまして細切れになっているところもありますので、それをどのように整理していくのかという考え方は持つべきであろ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	うというふうに思います。 一方で、先ほどの資料を拝見したところ、明らかに大幅に減少するだろう地区が見られます。その一方で減るかもしれないけれども十分な規模を維持できるであろうと想定される場所、地域によって全然事情が違ふことは確かだと思ひます。全て一緒くたに統廃合するのだとか、適正規模というのはこれぐらいの大きさだから、そういう形で割っていくのだ、区割りをやり直していくのだと、という考え方もあるかもしれないが、どちらにしても地域の実情というものを把握しないことには話が前に進まないということも確かだろうと思ひます。 どちらが先かということについては、難しいところだと思ひております。いずれにしても武藤委員がおっしゃったように地域的なところも捉えながら川越市として今、どういふ状況になっているのかを把握するっていうところが、まず求められるのだろうと思ひました。 川越市は昭和の合併のときに、従来の本庁地区の周りに複数の地区がくっついて出来上がった自治体ですので、地域の持つ事情というのがそれぞれ違いすぎるというところもあるだろうと思ひます。 例えば、霞ヶ関の地区では、新興住宅地としての色彩が強いという話になります。それぞれの地域の実情を考えなければいけないというところに本審議会が議論しなければならない対象の難しさがあると私は考えております。お答えになっているかどうか分かりませんが、両面から考えていかなければいけないだろうというのが私の答えになろうかと思ひます。
榎本委員	地域の実態という話から、実際に学級数が少しずつ減ってきている小学校や中学校について、学級数が減少していることによつての教育の在り方や実態、どういったところで、子供の変貌や変化があるのかについて聞いた上で、地域性も含めて審議を進めていかれた方がよいのかという思いを受けました。
眞下会長	子供たちが、クラスが減少していることに関して、実際どう考えるのだろうという大変明快な御指摘だと思ひております。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	自治体も学級数の減少というのは喫緊の問題として捉えているところがありまして、私の住んでいる 23 区の 1 つですけれど、つい最近まで 1 学年 2 学級が当たり前でして、運動会がすごく単純なのです。赤と白にしか分かれないうと、こういうところで非常に楽は楽だったのですけれども、ただ、新しいクラスというワクワク感があまりないという話も子どもたちから聞いておりましたので、榎本委員からの御意見も非常に重要な御指摘だと思いました。
眞下会長	御意見、御感想ですけれども、事務局の方でまとめて次回の審議会に向けての検討材料としていただくということでよろしいですか。
委員	(異議なし)
眞下会長	他に御意見がなければ、この議事については閉じたいと思いますけどよろしいですか。
委員	(質問等なし)
眞下会長	それでは議事の（３）審議の進め方等については、これで閉じさせていただきたいと思います。これをもちまして予定の議事を全て終了いたしました。本日いただいた御意見等を参考にいたしまして、次回の審議の進め方について事務局と相談いたしまして決めてまいりたいと存じます。これで本日の審議を終了いたします。御協力ありがとうございました。
眞下会長	それでは 3 の事務連絡、こちらに移らせていただきます。事務局からお願いします。
事務局	次回の第 3 回審議会につきましては、11 月 8 日になります。後日改めて開催通知を送付させていただきます。事務連絡は以上でございます。
眞下会長	それでは以上をもちまして、川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会第 2 回会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございます。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	以上

No.	選出区分	選出団体	氏名	出欠
1	学識経験者	東洋大学	小瀬 博之	欠
2		尚美学園大学	眞下 英二	出
3		東京国際大学	山崎 真之	欠
4	公共的団体の 代表者	川越市自治会連合会	宮岡 寛	欠
5		川越市自治会連合会	岩澤 嗣夫	出
6		川越市民生委員 児童委員協議会連合会	藤崎 昇	欠
7		川越市民生委員 児童委員協議会連合会	市村 博子	出
8	学校教育 関係団体の 代表者	川越市PTA連合会 (中学校)	岡田 研児	出
9		川越市PTA連合会 (小学校)	松本 勇一	出
10		川越市子ども会育成団体 連絡協議会	武藤 寛史	出
11		川越私立幼稚園・ 認定こども園協会	榎本 円	出
12		川越私立保育園協会	牧野 元洋	出
13		川越市中学校長会	粕谷 英之	出
14		川越市小学校長会	遠藤 千絵	出

事務局職員

No.	所属	職名	氏名
1	学校教育部	部長	岡島 一恵
2		副部長	西貝 俊哉
3		参事	石田 秀樹
4	学校教育部 学校管理課	副課長	杉田 和彦
5		副主幹	海老塚 大介
6		副主幹	山中 充
7		指導主事	宮本 幸二郎
8		指導主事	後藤 敦

